私を堕とせるのはただ一人？いや、ここからが恋人だし！

【第５話】

みなぎし　すい

【人物一覧表】

柊千咲…女子高生

白石彩夏（１２）（現在）…社長令嬢

神谷里見…女子高生

杉園愛梨…モデル

飯田早苗（１２）（現在）…女優

向崎珠江（１２）…里見の幼馴染

少女

女子生徒Ａ

女子生徒Ｂ

早苗の父

早苗の母

○女子高・廊下（朝）

生徒たちが、廊下を歩いている。

柊千咲、うつむきながら歩いている。

千咲「今日は、ちゃんと授業受けよう……」

○同・3の3教室（朝）

扉が開く。千咲、教室の中に入る。

白石彩夏「あ、おはよう」

千咲「おはよう」

千咲、4人の方を一瞬見てから、真顔のまま席に座る。

千咲、道具を出して勉強を始める。

彩夏「何してるの？」

彩夏、笑顔で千咲に話しかける。

千咲「勉強」

千咲、真顔で答える。

彩夏、寂しそうな表情になり、

彩夏「そっか……」

ぽつりと答える。

彩夏、千咲にぎゅっと抱きつく。

彩夏「ごめんね」

千咲「ううん、いいの。間違ってはないから」

彩夏「でも、たとえ間違ってなかったとしても、人を傷つけるような言い方は間違ってる。まあ、わたし自身、早苗を傷つけちゃってるんだけどね」

※　※　※

（フラッシュ）

飯田早苗、涙目になる。

※　※　※

彩夏「それでも、前に進むしかないんだけど」

千咲「でも」

彩夏M「すっかり自信なくしちゃってる……これで早苗を嫌いになったりしないけどさ、早苗、もうちょっと優しくしてあげてもいいのに」

早苗「彩夏、そういう話はあたしのいないところでして」

彩夏「あ、ごめん」

彩夏M「困ったなぁ。ここで千咲ちゃん連れ

てどっかに行けば早苗が泣くし、千咲を慰めなかったら千咲が」

彩夏、困り顔になる。

神谷里見、杉園愛梨をちらっと見て、直後に悶々とする。

里見「っ、ああもう！　愛梨！　ちょっと来い！」

愛梨「え？」

里見、愛梨の腕を引っ張る。

○同・屋上（朝）

愛梨と里見の２人っきり。

里見「時間ねえから手短に言う！　あいつら仲直りさせっぞぉぉぇ！」

愛梨「でも、なんでわたし」

里見「だあもう！　お前はあいつらが大事じゃねえのか！」

里見、声を荒げる。

愛梨「あ、大事、だよ」

里見「お前のことは気に食わねえけどよ、あ

いつらがあんななってんのだけはもっと気に食わねえ！　あいつら３人の問題をあたし１人でなんとかできる方法がわかんねえ！　だからお前しかいねえんだよ！　友達のあたしらが言わなきゃ意味ねえだろぉぉぇ！　あいつらが好きならお前も協力しやがれ！」

里見、肩で呼吸する。

愛梨「あ、でも、足手まといになったらごめんね」

里見「ああもう！　お前が謝る時間無駄なんだよ！　とにかく作戦考えっぞ！」

愛梨「あ、うん……」

里見Ｍ「ちっくしょ、なんであたし、こんなやつに協力頼んでんだよぉぉっぇ！」

○同・３の３教室

授業中。

里見と愛梨、スマホをいじっている。

○同・トイレ

彩夏と早苗、トイレ中。

スマホの通知が鳴る。

早苗「誰から？　まさか、柊じゃないでしょうね」

彩夏「ううん、里見ちゃんから。なんか２人で話したいっぽい、ＬＩＮＥで」

早苗「それならいいわ」

○同・３の３教室

千咲、勉強している。

千咲「２人大丈夫かな？　超怖い……今もいないし、超胃が痛むよ……」

彩夏「ああ、なんでか知らないけど２人って仲悪いからね。２人にも、いつか仲良くしてほしいな」

彩夏と早苗、千咲の近くにいる。

千咲Ｍ「そっか、みんなまだ知らないんだ。ってか今更だけど、なんで友達歴浅いわたしだけ聞いてんの？」

千咲、少し手を止め、再び手を動かす。

彩夏「昼休みに勉強なんて、珍しいね」

千咲「まあね」

彩夏、千咲をなでる。

千咲「……」

早苗、千咲を睨む。

彩夏「早苗も。いつもわたしのためにがんばってくれて、ありがとうね」

早苗「な、何よ……いつも褒めることなんてないじゃない」

彩夏「あんなに敬愛敬愛って言ってくれたら、褒めたくもなっちゃうでしょ。すごいったらすごいの」

早苗「う、うん……」

早苗、こくりと頷く。

その様子を、教室の外からこっそり見ている里見と愛梨。

○同・廊下

里見と愛梨、向かい合う。

里見「よし、悪くない反応だぜ。千咲に対しては言葉なしで褒めてもらって、早苗には言葉ありで多めに褒めてもらう。お前の思いつきだったけど、うまくいってるじゃねえか。なんでこの案出したんだ」

愛梨「えっとね、千咲ちゃんは早苗ちゃんのこと嫌ってないけど、早苗ちゃんは千咲ちゃんのこと嫌ってるから。どっちも彩夏ちゃんが褒めてあげなきゃと思ったから、そうするしかないかなって」

　里見、目を見開いて愛梨を見る。

里見「お前すげえな……医者目指してるあたしよりなんでわかんだよ」

愛梨「いっぱい本読んだりして、人の気持ちがわかるようにがんばったから。できてるかはわかんないけど……」

里見「なんで」

愛梨「里見ちゃんの、おかげだよ。里見ちゃんが、友達想いだから」

里見「お前っ！」

里見、愛梨の胸ぐらを掴む。

※　※　※

（フラッシュ）

斜面を落ちる珠江（１２）

※　※　※

里見「チッ……なんで！　なんでお前なんかがいい子ちゃんになってやがんだよぉぉぇ！」

里見、頭をかきむしり、掴んだ胸ぐらを離す。

里見、肩で息をする。

里見「いや、今はお前と言い争ってる場合じゃねえ。目標は、早苗に千咲のいいところを見せることだ。あたしは千咲が好きだからよ、なんとしてでも仲直りさせんぞ」

愛梨「うん……そうだね」

里見「簡単にいけばいいんだけどな」

○同・３の３教室

早苗、腕を組んでいる。

早苗「何か変ね、あの２人」

早苗、少し遠くにいる里見と愛梨を見つめる。

彩夏「そ、そう？」

早苗「まさか。変なこと吹きこまれたんじゃないでしょうね」

彩夏Ｍ「うわ、察しよすぎでしょ」

彩夏「え、そんなことある？」

千咲「あの２人に限って、一緒に何かたくらんでるってことははないんじゃない、かな……」

早苗「それもそうね。って、許可もないのに気安く話しかけないで」

千咲「ごめんなさい……」

千咲、うつむく。

○同・校門

千咲、重い足取りで校門に近づく。

女子生徒Ａ「またあの子いる。こんどは１人で」

女子生徒B「前に事故にあった子じゃない？」

千咲、校門を見る。

千咲が助けた少女が、校門前に立っている。

少女「あ、おねえちゃん！」

千咲「あ、こら。勝手に入っちゃだめ」

千咲、少女を抱えて校門をくぐり、学校の外へ。

女子生徒A「あれ。あの人、あの子助けた人じゃない？」

その様子を遠くから眺める早苗と彩夏。

立ち止まり、様子を見る。

千咲「（明るい声で）で、どうしたの？　お姉さんに会いに来たの？　いいけど、あんまり人の邪魔にはならないようにね」

千咲、しゃがんでにこっと笑う。

少女「あい」

少女、千咲の頭をなでる。

千咲「えっ」

千咲、呆然とする。

少女「よしよしだよっ」

少女、ニコニコしている。

千咲「あ、あ……」

千咲、目に涙を浮かべ、声を漏らして泣く。

少女「かなしいのやーだ、えがおがいちばんなんだよっ」

千咲「う、ううっ、ううっ……」

早苗、千咲をじっと見つめる。

彩夏「早苗。わたしがする自己評価の正しさに異議はある？」

早苗「別にないけど。彩夏って自己評価はそこまで低くないと思うわ。むしろ自分の能力を誇っているからこそ、生徒会長になったんでしょ、そして、それは客観的事実といえる」

彩夏「正解。じゃあさ……あの時ただ棒立ちで今あの子に何も言われないわたしより、一瞬もためらわず飛び出した千咲の方が、そういう意味ではすごいと思わない？　見

てたんだから、忘れたとは言わせないよ」

早苗「……」

千咲、少女に頭をなでなでされている。

彩夏、にこっと笑う。

少女「ばいばいお姉ちゃん！」

千咲「うん、ばいばい」

千咲、涙を含んだ笑顔で手を振る。

早苗、千咲を見る。

早苗「……ああもう！」

早苗、ずかずかと歩き出す。

早苗「柊！」

千咲「さ、早苗さん」

早苗「柊。断ることは許さない。あなた、あたしと付き合いなさい」

千咲と彩夏、きょとんとする。

千咲、彩夏「えええええっ!?」

彩夏「ななな、え、嘘でしょ、ななな」

彩夏、激しく動揺している。

千咲「ひいいっ！　絶対おかしい！　こ、殺されるー！」

千咲、その場から逃げようとする。早苗、千咲の腕を
早苗「バカいわないで、さあ」
早苗、千咲の腕を引っ張ってその場を去る。
彩夏「嘘でしょ……」
彩夏、立ち尽くす。表情から色が抜ける。

○飯田宅前（夕方）
千咲と早苗、家の前にくる。
早苗「柊。今日の予定」
千咲「はい？」
早苗「あなたの今日の予定を言いなさい」
千咲「しゅ、宿題？」
早苗「つまり何もなしね、まあどっちにしろ、あたしと付き合ってもらうわよ」
千咲「あ、あの～……あたしに、の間違いでは」
早苗「間違ってないわ。そういう意味よ」

千咲Ｍ「そういう意味だー！」

早苗「さあ。恋人を家に招くのは当然よ」

千咲Ｍ「魔女の家だ！　絶対魔女の家みたく
トラップ踏んで殺される！」

○飯田宅・居間（夕方）

千咲、おびえている。

２人、荷物を置く。

早苗「柊。落ち着きなさい」

千咲「は、はい」

千咲、震えを止める。

早苗「はぁ……わかった、今までのことは水
に流すから、もう怯えないで。こっちを見
て」

早苗、両手で千咲の顔を包み込むよう
に触る。

千咲Ｍ「て、天変地異だ！　早苗さんがこん
なるなんて、世界が滅びてしまうぅ……」

早苗「彩夏も、こざかしいこと考えるものね」

千咲「え？」

早苗「気づかなかった？　彩夏と里見と愛梨が協力して、あたしの柊への好感度をあげようとしていたのよ。本心だとしても、彩夏があんなあたしにデレるなんておかしいから」

千咲「あ、そうなの？」

早苗「ええ。もしかしたら、誰かのコネであの子も呼んだのかもね」

千咲「そんなまさか……あの、恥ずかしいです」

早苗「ああ、ごめんなさい」

早苗、手を離す。

千咲「早苗さんが謝った」

早苗「あ？　あたしだって謝るわよ」

千咲M「やっぱ怖い……」

早苗「いえ、本当にごめんなさい」

早苗、少し笑う。

千咲「どうしたんですか」

早苗「ため口でいいわ」

千咲「さ、早苗ちゃん」

早苗「そうそう、それでいいわ。恋人とはそういうものでしょ、女子高だから別におかしくない。さあ、風呂へ行くわよ」

千咲「ふえっ？　ちょちょ、いきなり推しの女優と風呂だなんて」

早苗「恋人だもの、風呂くらいいいわよね」

千咲M「何したいんだこの人……読めない」

○同・風呂場（夕方）

早苗「さあ、あたしの体を好きに洗って」

千咲「は、はい……好きに？」

早苗「ため口。好きには、恋人なんだから本当に好きに洗って」

千咲「う、うん」

千咲、早苗の体を優しく洗い始める。

早苗「いい感じね、とても優しいわ。次、前」

早苗、千咲に体の前を向ける。

千咲「すごい……綺麗な体してま、あ、してるね」

早苗「当然よ。役作りにあたって食事制限や

保湿とか、いろいろ頑張っているから」

早苗、千咲の胸をじっと見つめる。

千咲「あ、あのー」

早苗、自分の胸を見つめる。

早苗「柊、胸大きいのね。形はまずまずといったところかしら。これで彩夏を籠絡したの？」

千咲M「人のおっぱい勝手に批評し始めたぞこの人……」

千咲「し、してないよ。っていうか、わたしはまだお友達だから、気持ちが変わるまではお友達でいさせてって言った」

早苗「そう」

千咲M「反応薄っ！」

早苗「とにかく、よくできたわね。優しい手つきで、肌を傷つけないとても素晴らしいなでかたよ」

千咲「あ、ありがとう……」

早苗「柊」

千咲「ひあんっ！」

早苗の手が、千咲の胸に触れている。

千咲M「嘘でしょ？　推しの女優におっぱい触られてる！　こんなの幸せすぎるってばぁ！」

早苗「キスしなさい」

早苗、千咲に顔を近づける。

早苗「さあ、早く。恋人とはそういうものでしょう」

千咲「う、うん」

千咲、早苗の唇にキスをする。

唇が離れる。

早苗「唇……」

千咲M「あ……やらかした！」

○同・居間（夜）

早苗の両親と早苗、千咲で食事中。

千咲、食べ終わり台所に行く。

早苗の母「何してるの？」

千咲、皿を洗い始める。

千咲「あ、皿洗いです」

早苗の母「あら、いい子ね」

早苗「……それは本心？」

千咲「皿洗いに本心？　って聞かれてもわかんないよ」

○同・寝室（夜）

早苗「さあ、一緒のベッドで寝るわよ」

千咲「あ、うん」

千咲M「何言われるかわかんないから全部従おう」

早苗と千咲、一緒のベッドに寝転び、布団をかぶって向かい合う。

早苗「まだご機嫌取りとか考えてる？」

千咲「あ、へあっ」

早苗「正直でわかりやすいのね」

千咲「え？　あ、ごめん」

早苗「まあ、その優しさと正直さは本物なのでしょうね」

千咲「……」

早苗「まったく。罪な女」

千咲「はい？」

早苗「気づいてない？　他の視線」

千咲「……？」

早苗「はあ、まあいいわ。とにかく、彩夏を泣かしたら許さないから」

千咲「それはしないよ。１回それ間違えたから、もう二度としない……早苗ちゃん、彩夏と仲いいんだね」

千咲Ｍ「ってか、なんて説明しよう彩夏に……」

早苗「まあ、ね」

○（回想）白石宅・居間

早苗（１２）と彩夏（１２）、お絵描きで遊んでいる。

彩夏、早苗をなでなでする。

早苗Ｎ「あたしの両親は、あたしを産んですぐ失踪した。自分の両親について打ち明けた時、彩夏は真っ先になでなでしてくれた。今でもその感触が忘れられないの」

（回想終わり）

○飯田宅・寝室（夜）

千咲「彩夏、優しい」

早苗「ええ。だから、尊敬、敬愛してして慕っているの。今言った話以外にも、優しいところが彩夏にはたくさんあるわ。その彩夏が」

千咲「その彩夏が？」

早苗「あなたに惚れてしまうなんてね。あなた、きょう校門で彩夏に褒められたのよ。自己評価が決して低くない彩夏に。あなたは泣いてて聞こえてなかったでしょうけど」

千咲「っていうか、今更だけど気づいてたんだね……いや待って、ならなんでわたしと恋人に!?　彩夏への返事を実質保留にしてるのに、彩夏が可哀想じゃ……」

早苗「そうね。申し訳なく思っているし、後で謝るつもりよ」

千咲「早苗ちゃん……」

２人、じっと見つめあう。

早苗「あなた、人間関係の距離感変よ」

千咲「えっ？」